

既調合品①

# アクリル系弾性塗材を使いこなす

鈴木逸夫 (日経建築)

ここでは、需要の多いアクリル系弾性塗材「ジョリパット」、マヂックコート、ベルアートの3銘柄に焦点を絞って考察してみたい。いずれも左官、吹付け、ローラーなどの施工に対応し得るものである。定番製品のため、知らない方はいないと思うが、よりよく使いこなすための現場情報を中心に解説する。

## ■ジョリパット

「ジョリパット」(アイカ工業)の場合、メーカーの開発により現在ではジョリパットと単に一括りにできないほど多岐にわたる。

### (1) パターンのバリエーション

内外装用標準品100シリーズから、大面積用300シリーズ、可とう性を持つ650シリーズ、吹付け用700

シリーズ、さらにはこれらに加えて、新しい骨材を使用する内外装素材シリーズ、環境問題に重点を置いたシルキーパレットと、用途別分類だけでも7種類のラインナップがある。さらに、シリーズごとに数種から数十種のパターンがあるため、そのバリエーションの多彩さは他社の追随を許さないものがある。

### (2) 現場での施工方法について

ジョリパット主材は既調合で納品されるが、骨材および各テクスチュア用の副資材はすべて現場調合である。主に使用される骨材は

寒水石径1〜7厘でジョリパット主材とセットであるが、別途調達も可能である。寒水石以外のガラスビーズ、蛭石、ミックス骨材な



写真2 「横こだち」専用の竹ぼうき



写真1 ジョリパット100シリーズ「横こだち」(内装)

どは主材とセットで調達するのが無難であろう。現場調合のため、骨材を計量する必要があることと攪拌時に大型の混ぜ樽が必要なこととが難点といえ難点である。

数多くのパターンに対応するため、アイカ工業では施工工具の開発にも力を入れており、ローラー、刷毛、櫛ペラなど、およそ鏝と吹付け用のガン以外のものはすべてメーカーで揃えられる(写真1・2)。どの仕上げの場合も下塗りおよび下吹きは手持ちの鏝、ガンで対応できるが、上塗りに使用する工具は施工マニュアルで確認しておくのが望ましい。

素材シリーズの施工にあたっては、使用材の確認と初めての施工の場合はメーカーに技術指導を依頼したほうが無難である。これは、アクリル系塗材定番の骨材、寒水石だけでなく、玉石や蛭石、硝子ビーズなどの骨材を使用するからだ。通常のジョリパット施工に比べ工程数も多く、材料の混合も複雑であるため、ジョリパットとは



写真3 ジョリパット素材シリーズ「ルナフォシルS」



写真4 ハナエモリビルで生み出されたマヂックコート「HM」パターン

別物と考えたほうがよいかも知れない。たとえば「ルナフォシル」というパターンは骨材洗い出し仕上げである(写真3)。

### (3) コストについて

気になるコストであるが、汎用のジョリパットシリーズで上代2千600円〜1万900円/m<sup>2</sup>、素材シリーズで6千〜1万2千円/m<sup>2</sup>と非常に幅広い。これは、シリーズとそのパターンが多いためで最多価格帯はマヂックコートなどと同程度と考えて差し支えない。

### (4) 今後の展開

アイカ工業では今後の需要を予測して、住宅の改修用のシーラーやファイラーを開発済みである。

## ■マヂックコート

戸建住宅のみならず大型物件への採用も多い「マヂックコート」(フッコー)は、各仕上げ共通の下塗り用A材に加え、テクスチュアによって上塗り用A〜D材を使い分ける。各材料はすべて骨材混入の既調合で納品される。骨材の



写真5 無機と有機のハイブリッドFMXの「ブツ」仕上げ

粒子はA材が最も細かく、B、C、Dと順次大きくなる。内外装や施工面の下地による使い分けはなく、A〜D材ですべての施工に対応可能である。

### (1) 施工方法について

内外装において一般的に使用される大部分の下地材に施工できる。各仕上げはA材を全面シゴキ塗りしたあと、テクスチュアによりA〜D材を使い分けて上塗りをする。使用する工具については金鏝硬軟、木鏝、プラスチック鏝、刷毛等を多種使用するため、事前にメーカー発行の施工マニュアルをチェックしておく必要がある。

基本パターンは17種であるが、特注品も対応が可能である(写真4)。ただし、既調合の材料に別素材を混入したり色調整をする場合には、メーカーへ問い合わせたほうがよい。どのような素材または顔料を、どの程度まで混入可能か確認する必要がある。独自の判断での材料調整は、不都合が生じた際に責任問題が発生する恐れが

※1 アイカ工業問合せ先: TEL03-5912-2774 ※2 フッコー問合せ先: TEL055-262-2111